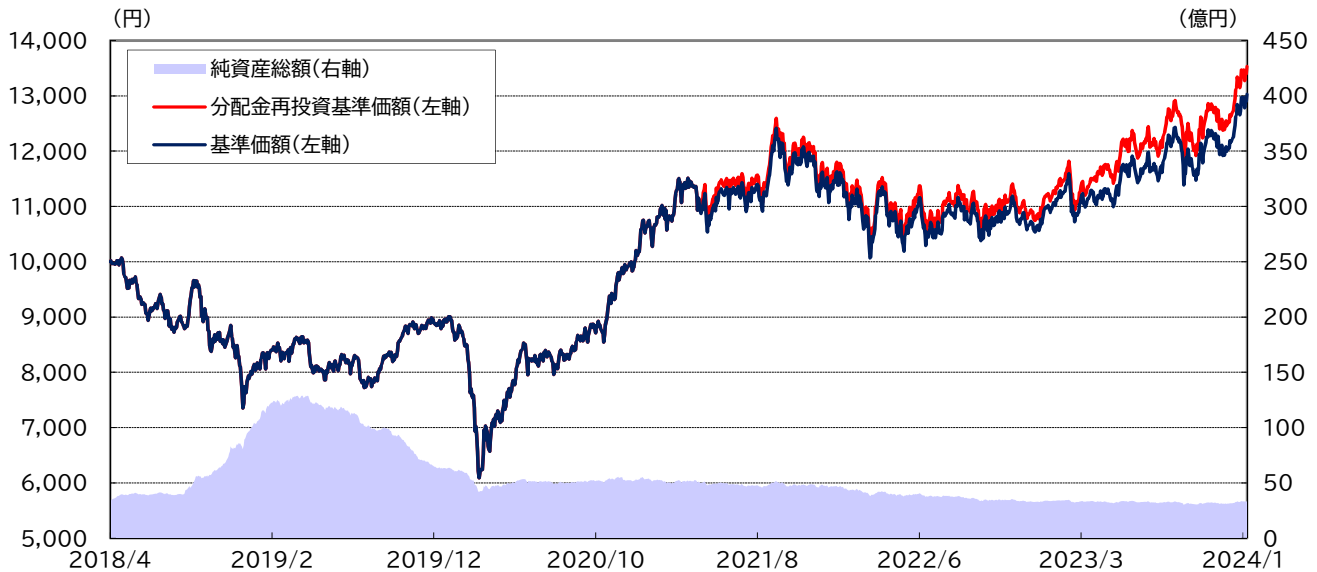


インフラ関連日本株式ファンド 愛称 インフラレボリューション
追加型投信/国内/株式

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.584%(税抜1.44%)の信託報酬控除後です。
 ※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

基準価額	13,027 円
純資産総額	33.3 億円

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	6.99%	11.51%	9.34%	20.44%	31.67%	35.32%
参考指数	7.81%	13.40%	11.05%	32.42%	51.72%	64.66%

※騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
 ※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
 ※参考指数は、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。また、参考指数の設定来騰落率は、設定日前営業日の終値との比較です。
 ※参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

ポートフォリオ構成比率	
株式	95.4%
(内国内株式)	(95.4%)
(内先物)	(0.0%)
短期金融商品その他	4.6%
組入銘柄数	44 銘柄

※当ファンドの純資産総額に対する比率です。

最近5期の分配金の推移	
2019/4/24	0 円
2020/4/24	0 円
2021/4/26	160 円
2022/4/25	50 円
2023/4/24	210 円
設定来合計	420 円

※分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

組入上位10業種		
	業種名	比率
1	電気機器	21.9%
2	情報・通信業	15.1%
3	化学	8.2%
4	ガラス・土石製品	5.5%
5	陸運業	5.2%
6	卸売業	5.0%
7	機械	4.3%
8	非鉄金属	4.0%
9	銀行業	3.9%
10	その他金融業	2.9%

※各比率は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

組入上位10銘柄			
	銘柄名	業種	比率
1	日本電信電話	情報・通信業	5.0%
2	日本電気	電気機器	4.2%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.9%
4	東京エレクトロン	電気機器	3.3%
5	伊藤忠商事	卸売業	3.1%
6	太平洋セメント	ガラス・土石製品	3.1%
7	オリックス	その他金融業	2.9%
8	東京海上ホールディングス	保険業	2.8%
9	住友電気工業	非鉄金属	2.6%
10	日立製作所	電気機器	2.6%

インフラ関連日本株式ファンド 愛称 インフラレボリューション
追加型投信／国内／株式

ファンドマネージャーのコメント

<投資環境>

1月の国内株式市場は上昇しました。日米金融当局の発言を受けて、米国では早期利下げという見方が後退する一方、日本では金融政策正常化はまだ先との見方が強まりました。為替市場で円安が進行し、輸出企業の業績先行き懸念が後退したことで投資家心理が好転しました。海外投資家による積極的な日本株買いから、日経平均株価は上値の壁となっていた34000円を突破すると騰勢を強めました。上昇のけん引役となったのは海外投資家が選好する大型株や、AI向け需要の拡大が期待される半導体関連銘柄でした。下旬に開催された日銀の金融政策決定会合では金融政策は維持されたものの、正常化の時期が近付いているとの見方から、国内長期金利が上昇し、株価の上昇は一服しました。株価が急ピッチで上昇したことで短期的な過熱感が意識されたことに加え、国内企業の2023年10-12月期決算の内容を見極めたいという見方が強まったことから、月末にかけては高値圏でもみ合いの展開となりました。

<運用経過>

当ファンドの運用につきましては、日本および海外におけるインフラ事業の拡大により利益成長が見込まれる日本の企業の中から、業績動向、財務状況、成長力、バリュエーション等を勘案して銘柄を選定しております。

1月の運用につきましては、米国の堅調な経済指標を受けて、短期的に経済が急減速するリスクが後退したと判断し、株式の組入比率を95%強にまで引き上げ、中長期的な市場成長性が高いと考えられる情報インフラ関連株や、配当面での魅力度が高いと判断した高配当株などを中心としたポートフォリオでの運用を行いました。個別銘柄の入れ替えにつきましては、受注の急拡大が続いている半導体関連株や、オフィス賃料の上昇による収益改善が期待される不動産株を買い付けた一方、転換社債を発行したことで中期的に株価の上値が抑えられる恐れが強まった電子部品株、高収益製品のシェア低下が懸念された医療機器株などを売却しました。

この間、基準価額に対しては、民生エレクトロニクス株や銀行株がプラスに寄与した一方、AI関連株や鉄道株がマイナスに影響しました。

<今後の運用方針>

従来は、今年の前半にも米国が景気後退を迎えることを想定し、国内株式市場にも悪影響が及ぶことを懸念していましたが、足元の米国の消費や雇用の状況を踏まえ、米国が景気後退局面に突入するリスクは後退したと、見方を改めました。とはいえ、米国の金融政策が利下げに転じる時期が遠のいていることや、近い将来、日本銀行の金融政策が引き締めへと転換されることが意識されるようになると見られるため、株式市場の上値余地は限られると考えています。一方、日本企業の業績が堅調に推移していることや、東証の要請を受けて資本効率改善に向けた取り組みに着手する企業が増えていることなどが株価の下支えになると思われるため、当面の国内株式市場は、一定のレンジ内で方向感に乏しい動きになると予想しています。

当ファンドの運用につきましては、日本および海外におけるインフラ事業の拡大により利益成長が見込まれる日本の企業の中から、業績動向、財務状況、成長力、バリュエーション等を勘案して銘柄を選定します。

今後の運用につきましては、IT投資の拡大により高成長が期待される情報インフラ関連株への積極的な投資を継続する方針です。

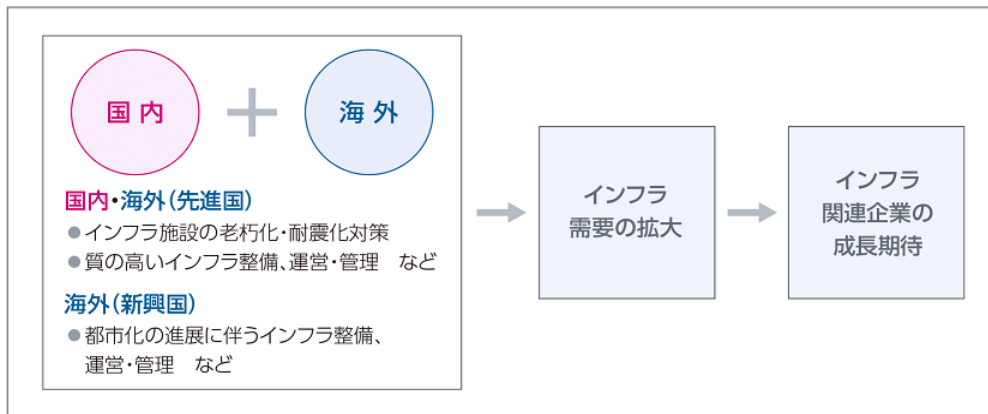
※ 今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド情報

設定日 2018年4月27日
償還日 2028年4月24日
決算日 毎年4月24日(休業日の場合は翌営業日)

ファンドの特色(1)

1 | 日本および海外におけるインフラ事業の拡大により利益成長が見込まれる日本の企業の株式へ投資を行います。



2 | 投資にあたっては、インフラ関連企業に着目し、業績動向、財務状況、成長力、バリュエーション等を勘案して銘柄を選定します。



インフラ関連企業とは

産業や生活の基盤となる設備やサービスの提供を行う企業、およびインフラの発展に伴って恩恵を受けると考えられる企業をいいます。

インフラ分野の一例



※上記はインフラ分野の一例を表したものであり、すべてを網羅したものではありません。今後変更になる場合があります。

ファンドの特色(2)

- 3 | ポートフォリオ構築にあたっては、定量分析、定性分析、流動性等を勘案して行います。
- 4 | 株式の組入比率は高位を保つことを基本とします。
- 5 | 株式以外の資産の投資割合は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

● 分配方針

毎年4月24日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

● 主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	2028年4月24日まで(2018年4月27日設定) ただし、投資者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。
繰上償還	受益権口数が5億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎年4月24日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	2,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.sbiokasan-am.co.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用				
購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額 購入時手数料率の上限は、3.3%(税抜3.0%)です。 購入時手数料率は変更となる場合があります。 詳しくは販売会社にご確認下さい。		ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。	
信託財産留保額	ありません。			
投資者が信託財産で間接的に負担する費用				
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率1.584%(税抜1.44%)			
	配 分	委託会社	年率0.70%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。
		販売会社	年率0.70%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
		受託会社	年率0.04%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
その他費用・ 手数料	監査費用:純資産総額×年率0.011%(税抜0.01%) 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。			

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

委託会社および関係法人の概況

委託会社	SBI岡三アセットマネジメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

インフラ関連日本株式ファンド 愛称 インフラレボリューション
追加型投信/国内/株式

販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

委託会社
お問い合わせ先



フリーダイヤル
0120-048-214
(営業日の9:00~17:00)



ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

ご注意

- 本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。